

治療体験

この1年間のアルコール・薬物依存症者の社会復帰状況と考察

～平成24年9月から平成25年8月～

札幌太田病院 アルコール・薬物専門デイケア

福井 徹 1) 石内映子 2) 尾崎君子 3) 林 美里 4)

佐々木知之 3) 山下盛夫 5) 小野修一 6) 太田秀造 6)

1) 准看護師 2) 作業療法士 3) 看護師 4) 精神保健福祉士 5) 指導員 6) 医師

1. はじめに：当院1階デイケアは、平成9年にアルコール・薬物依存関連のデイケアとして開設された。以来、多様なプログラムを用意し通所者（以下メンバー）の意欲向上・出席率向上・自己肯定・断酒会参加支援・社会貢献意識を通して断酒・断薬継続を支援してきた。これらの活動を通してどのような意識変化が生じたかは、昨年の当アルコールフォーラムで述べた通りである。そして、その後平成24年9月から1年間の社会復帰状況を報告すると共に、考察を行ったので報告する。

2. 社会復帰状況：平成24年9月から1年間に社会復帰（就労）した方は、元の職場への復職4名、一般就労5名、就労支援事業B型へ1名の合計10名であった。この10名の平均年齢は、45歳。男女比は、男6：女4。疾患別では、アルコール依存症8名、ギャンブル依存症1名、薬物依存症1名であった。デイケア通所期間は、全員3年未満であり、全員が何らかのボランティア活動に参加していた。

3. 社会復帰した症例：A氏 40代男性 アルコール依存症 当院入院回数1回 高齢者介護施設に就職。酒害を振り返る事により断酒を継続する自信が生まれ、ボランティア活動で誰かの為に働きたいとの気持ちが、強く湧きあがり就労に繋がった。デイケア通所中に訪れた当院の介護病棟や高齢者病棟でのボランティア活動を通して、自分にも介護の仕事が出来るのではないかと考えるようになった、と話された。

4. 考察：酒害・薬害を語るべき時、単に酒歴・薬歴を話す方が多い。酒歴・薬歴を語る事は、単に過去の出来事を話したに過ぎない。酒・薬により「誰にどのような迷惑を掛けたか」、その中で「いかに自分が助けられ生かされて来たか」という事実と反省を語る事が体験発表の要点ある。親や子、配偶者の立場で自分の酒害・薬害体験を率直に話せるようになって初めて断酒・断薬継続の第一歩を踏み出したと言える。その上で、誰かの役に立ちたい、社会貢献したいと言う気持ちと合致した時に、社会復帰（就労）と言う成功を得られるのではないだろうか考える。

5. 結果：当デイケアでは、酒害体験の話し方・考え方について学習している。酒害・薬害体験談と酒歴・薬歴を混同し同一視し、勘違いしている場合多いからである。節酒は長く続かず必ず連続飲酒に陥るから断酒の継続が必要である事。その為に、デイケア通所や週1回以上断酒会参加が必要である。正しく酒害・薬害体験談を話せることが、社会復帰への第一歩とし、これからは病棟との連携を強める事で、患者様の早期の社会復帰に繋げたい。